

# L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の使い方～基本編～

情報理工学部 2 回生 伊藤聡子

2018 年 2 月 5 日

## 目 次

<b>1</b>	<b>概要</b>	<b>2</b>
<b>2</b>	<b>文章構造について</b>	<b>2</b>
2.1	表紙の作り方 . . . . .	2
2.2	項目の作り方 . . . . .	3
2.3	箇条書きの作り方 . . . . .	3
2.4	ページ番号の作り方 . . . . .	3
<b>3</b>	<b>図について</b>	<b>3</b>
<b>4</b>	<b>特殊文字・記号について</b>	<b>3</b>
<b>5</b>	<b>おまけ</b>	<b>3</b>
5.1	目次を作る . . . . .	3
5.2	コメントアウトする . . . . .	3
5.3	指定した範囲を枠で囲む . . . . .	3
5.4	プログラムを表示させる . . . . .	4

# 1 概要

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X とはなんぞや？ そう思う人はかなりいると思います。

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X（ラテック、ラテフ）とは、レスリー・ランポートによって開発されたテキストベースの組版処理システムである。電子組版ソフトウェア TeX にマクロパッケージを組み込むことによって構築されており、単体の T<sub>E</sub>X に比べて、より手軽に組版を行うことができるようになっている。と表記できない場合は“L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X”と表記する。

なお、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を基にアスキーが日本語処理に対応させたものとして日本語 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X が、さらに縦組み処理にも対応させたものとして pLaTeX がある。

専門分野にもよるが、学術機関においては標準的な論文執筆ツールとして扱われている。

by.wikipedia

簡単に言うと、上手い感じに文章や図を配置して PDF などに出力できるソフトのことです。

この冊子では、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の中でも基本的な、書くのに必要最小限のことだけを紹介していきます。

## 2 文章構造について

### 2.1 表紙の作り方

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X は文章の中でも主に、レポートや論文を書くときに使われます。そんな時、いきなり本文から始めるなんてことはありません。初めにタイトルや著者名、日付が書かれた表紙がおかれることがほとんどです。まずは、そんな表紙の作り方から始めたいと思います。

表 1: 表紙を作るときに使うコマンド

用途	コマンド
タイトル	<code>\title</code>
著者名	<code>\author</code>
日付	<code>\date</code>
タイトルを出力	<code>\maketitle</code>

表紙を作るとき、主に以上のコマンドを使用します。

実際に書いてみると、以下ようになります。

```
\documentclass[11pt,a4j]{jarticle}
```

```
\begin{document}
```

```
\title{タイトル}
```

```
\author{著者名}
```

```
\date{日付}
```

```
\maketitle
```

以下、文章を書く

```
\end{document}
```

## 2.2 項目のつくり方

## 2.3 箇条書きのつくり方

## 2.4 ページ番号のつくり方

## 3 図について

## 4 特殊文字・記号について

表 2: 特殊文字・記号を表示させるコマンド

用途	コマンド
タイトル	<code>\title</code>
著者名	<code>\author</code>
日付	<code>\date</code>
タイトルを出力	<code>\maketitle</code>

## 5 おまけ

### 5.1 目次を作る

```
\tableofcontents
```

### 5.2 コメントアウトする

### 5.3 指定した範囲を枠で囲む

```
\usepackage{ascmac}
```

## 5.4 プログラムを表示させる

```
\usepackage{listings}
```